

できるとか、できないとか

滋賀県

五個荘洗心館

小学6年 笠松 愛芽梨

「十三才の宮本武蔵と六十才の宮本武蔵、どっちが怖く見える？」

夏の合宿で先生が見せてくださった二枚の写真は社会の教科書にはのっていない、私の知っている宮本武蔵のイメージとはまったく違うものでした。十三才の武蔵は荒々しくてけんかっ早そうで、すごく前のめりでした。一方、六十才の武蔵はどっしりとかまえていて、表情はおだやかな様だが、目の奥がすごく冷めたく感じました。仲間たちは十三才の写真の方が「怖い、怖い」とさわいでいたけれど、私は六十才の写真の方がドキドキする程怖く感じ、すべてをお見通しという風にも見えました。もし剣道の試合をしたら、冷静な判断ができなくて、絶対に勝つことが出来ないでしょう。何より足がすくんで前に出る事も竹刀を振ることさえもできないと思える程の写真でした。

この時私の頭の中には「なぜ」とハテナマークが浮かびました。私も仲間も同じ人間なのにそんな反対の意見になってしまうのだろうか。自分の考えは間違っているのかと。

私には本当のお父さんのように私を大切にしてくれる人がいます。どんな時も一緒に考えて、私が納得するまで話を聞いてくれます。疑問に思った事は何でも話し、スッキリ解決してくれます。なので家に帰ってこの「なぜ」も話してみました。「どうおもう」とすると「みんな違うのは当たり前、正解なんてないから。自分の思うようにすればいいから気にしない」と返ってきました。でも学校ではみんな一緒、剣道の稽古でもみんなと同じメニュー。少しでも違うことをすれば変わってると言われます。なのに違っていいと言われてもどうしていいのかわかりません。いつものように「なるほど」とすぐにスッキリしない私に母が一冊の絵本をくれました。ヨシタケシンスケさんの「みえるとかみえないとか」でした。もともとヨシタケさんの絵が好きでよく読んでいたので、今さらかと思いながら読んでみると、頭のモヤモヤがみるみると晴れてい

ったのでした。

三つ目のある宇宙人は主人公に言います。「後ろが見えないなんてかわいそう。」でも普通後ろに目はありません。そうですこの普通こそ私を不愉快な思いにするものなのです。みんなは見たものだけで人や物を判断します。だから十三才の武蔵を怖いと言ったのでしよう。しかしそうは思わなかった私は、周りとは少し違う角度から見ているのです。「人の考えに正解なんてない。あめちゃんの人生はあめちゃんの答えが正解だ」とずっと教えてもらっていたから私はみんなと反対の考えにたどりついたのです。

剣道の稽古は仲間と一緒にやるから楽しいし、くやしいと思うから努力しようとも思います。しかし稽古のときによく言われる言葉、「これぐらい普通できるやろ。」私はこの言葉を聞くと意気消沈。もう稽古したくなくなります。小さい頃は出来ない事も努力していれば怒られずほめてもらえるのに大きくなればそうでないのはなぜだろう。家では得意な事も苦手なことも個性だと言われます。だから「普通できるやろ」に疑問が湧きます。普通って何？当たり前って何？私の頭にはハテナがグルグル回ります。普通じゃない人が新しいものを発見したり、発明したりしているのになぜ？

「十人十色」その言葉のように人は色々で外見も中身も違います。その中で自分が一番自信を持って輝けるものを見つけることができればと思います。宮本武蔵はきっと剣の道が大好きでたくさん努力もしたり、なぜ？なぜ？とたくさんの疑問を解決し、自分なりの正解を出して行ったのでしよう。

私はまだ十二才、これから自分のやりたい事にたくさんチャレンジしていけたらいいなと思っています。そして誰よりも輝いてナンバーワンよりオンリーワンになれるように前に進んでいける自分になりたい。